

# 2030年の農業を予測する

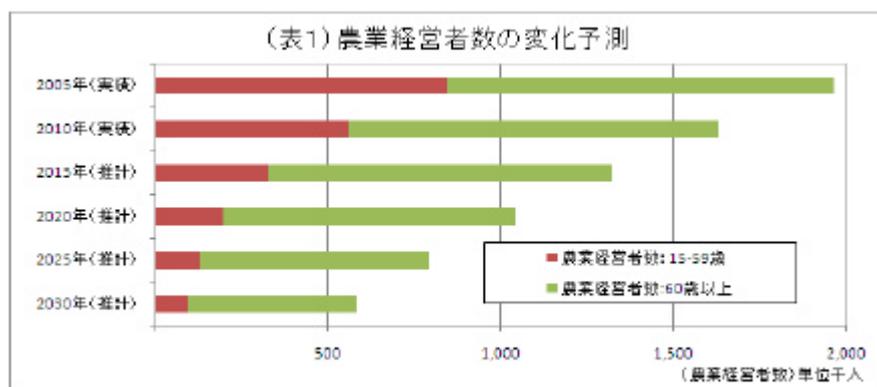
## ～ 極限まで進む高齢化 ・見えてきた新たな動きのきざし～ 農水省

近い将来、我が国の農業はどのようになっているのか。農業センサスの結果をふまえ、農水省は、「2010年世界農業センサス 総合分析報告書」を発行し、日本の農林業の現状と中長期的な変化についての将来予測を明らかにした。以下概要を紹介する。

### 極限まで進む高齢化 農業経営者・農業後継者の確保が必要

報告書によると、2030年の農業経営者数は2010年の36%である58万人まで落ち込むほか、平均年齢も71.7歳と高齢化が極限にまで進行すると見通す（表1 出典：2010年世界農業センサス 総合分析報告書）。昭和・桁世代のリタイアにより、多くの農家は世代交代の時期に入っているにも関わらず、兼業農家・副業的農家を中心に世代交代が進んでいない状況がある。加えて、2010年現在で農業後継者がいない離農者は50.3%に上っており、高齢者が一人で農業を営むケースが増加している現況から、今後大量の離農者が発生することが予測される。

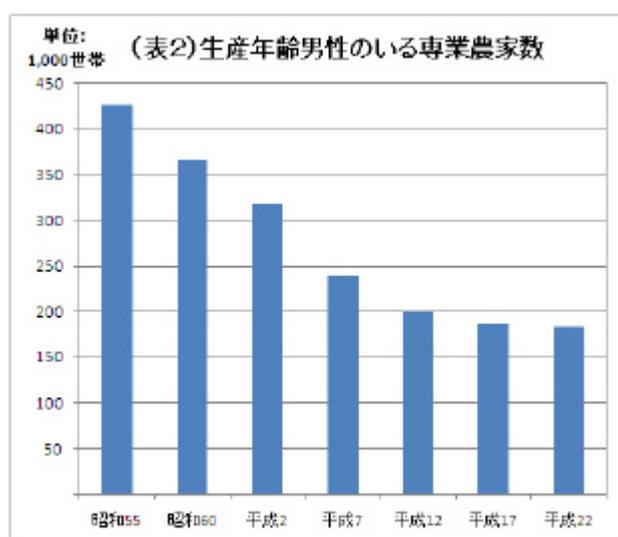
このため世代交代を促進し、今後のさらなる労働力の高齢化を抑えるためには、青年層を中心として幅広い年齢層を農業に取りこむ対策を実施することが必要だ。



### 新たな動きの兆し

農業経営者の高齢化が進む一方で、2010年センサスからは、小さいながらも新たな動きが見えている。例えば若い世代がいる専業農家数が下げ止まる傾向が出てきたこと（表2）、また2005年のセンサスより同居している後継者世代が就農する動きが強まっていることが報告されているのだ。

各地の行政・JAもこのような世代交代により就農する若い世代や、Iターン・Uターンによる新規就農者を支援する農業支援課や農業戦略課などの部署を設け、様々な支援制度を作っている。各地域の支援制度は全国新規就農相談センター（URL: <http://www.nca.or.jp/Be-farmer/>）の「自治体による就農支援」で検索することができる。一般企業の農業への新規参入規制の緩和、耕作放棄地の活用促進、団塊シニアの新規農業参入支援、高齢者の労働力活用など専業農家の労働不足を支援する等、芽生えてきた新たな動きを大きく育てるための対策が急がれる。



## トマトのゲノム解析が完了 ~ かずさDNA研究所



2012年5月31日のイギリス科学誌「ネイチャー」に論文が掲載されたが、世界で初めてトマトの全ゲノム解析をほぼ完了した。2003年より国際共同プロジェクトとして我が国の他にアメリカ、韓国、イギリス等14カ国が参加して開始され、約9年の歳月が費やされた。我が国でトマトのゲノム解析を行ったのは公益財団法人「かずさDNA研究所」。同研究所では過去にラン藻のゲノム(1996年2月)、シロイヌナズナ(2000年12月)の全ゲノム、ダイズ根粒菌全ゲノム(2002年12月)、ハクサイ全ゲノム(2011年9月)、ユウカリ全ゲノム(2012年1月)解析で成功している。発表では料理の中心的な栽培種トマト(Heinz1706)と南米の野生種カラントトマトの概要配列を解読。トマトは約9億塩基対で構成され、約35,000個の遺伝子が見つかった。この解読結果によってトマトの特徴と各遺伝子との関連性を探るきっかけとなる。同機構は従来からある育種技術と遺伝子組み換え技術を融合させることで病害虫耐性、乾燥耐性、高収量のトマトが生産出来る可能性が高まったとしている。また、健康に寄与するトマトの機能性成分(カロテン・リコペン・ポリフェノール)を多く含む品種の開発等も期待出来るとしている。

トマトは、世界でジャガイモやナスに並ぶ世界で最も栽培されている野菜(世界のトマト生産量約145,653万トン;2009年FAO統計)のひとつ。最近では京都大学河田照雄教授と同機構ら研究グループが脂質代謝異常の改善に有効な13-oxo-9,11-octadecadienoic acid(13-oxo-ODA(オクタデカジエン酸))を発表しスーパーやコンビニから一時トマトジュースが消えた事象があったばかりで記憶に新しい。世界人口が70億人を突破し2050年には推定93億人を超え100億人に迫る時に、高収量・高機能の育種開発に応用可能で、食糧危機が危ぶまれる中、明るい話題となっており日本人が危機回避に貢献していることはとても誇らしいことだ。\* 2012年5月30日付日本経済新聞等

---

## 第7回ロハスデザイン大賞決定

6月5日の「環境の日」に、ロハスデザイン大賞が発表された。LOHAS(ロハス、ローハス)という言葉は我々にも馴染みのある言葉となりつつあるが、さてこの意味を正確に説明できる人はまだ限られているのではないかと。Lifestyles Of Health And Sustainability 地球環境と人間の健康を最優先し、人類が共存共栄できる持続可能な社会のあり方を追求するライフスタイルだ。アメリカで造語されたライフスタイルを営利活動に結びつけるために生み出されたマーケティング用語である。日本では、「健康と環境を志向するライフスタイル」と意識され、スローライフやエコに続いて広まった。一般的には、健康や癒し・環境やエコに関連した商品やサービスを総称してロハスと呼び、ロハス的な事・物に興味を持つ人をロハスピープルと呼ぶ。2005年の調査では、日本人の成人人口の29%、アメリカでは23%がロハス層だという。

一般社団法人ロハスクラブはこのロハスを分かりやすく、社会的に影響をもつ概念を育てることを趣旨として活動している。この取り組みの一環として2006年からロハスデザイン大賞を実施しており、第7回大賞の発表が東京の銀座ソトコロハス館で行われた。ロハスデザイン大賞は、ロハスクラブが主催し環境省が後援するコンテストで、「個人」「企業・事業・プロダクト」「環境活動」に賞を与える。今回のテーマは「ソーシャル・デザイン」。環境や社会をよりよくする仕組みや取り組みのことで、JGAP協会もエントリーした。このテーマのもと、離島専門ウェブマガジンやタブロイド紙を発行し、都市と離島をつなげる取り組みをする鯨本あつこ氏や、津波や地震から身を守る防災シェルターなどのヒト・モノ・コトに関する興味ある取り組みが9点(エントリー候補137点)選ばれた。自然を相手にする農業界もこのロハスの概念とは無縁ではられない。もっと知見を深めていく必要があると言える。今後の取り組みも注目していきたい。

---

「傘かしげ」をご存知でしょうか。道ですれ違うときに、傘と傘がぶつかったり雫がかかったりしないよう、相手と反対側にスッと傘を傾けることをいいます。江戸時代の商人の心意気を示した江戸しぐさのひとつ。“仕草”ではなく“思草”と書くそうですから、まさに生活の哲学ですね。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>